

## 第３回土浦市総合企画審議会 議事録

●日 時：令和３年１０月７日（木） １３時３０分～１４時４５分

●場 所：市役所本庁舎３０１・３０２会議室

●出席者：

[有識者会議委員（１２人）]

藤川会長、藤井副会長、吉田委員、下村委員、勝田委員、細谷委員、円子委員、  
松井委員、中川（喜）委員、今高委員、中川（弘）委員、玉根委員

[土浦市（１３人）]

東郷副市長、栗原副市長、入野教育長、川村市長公室長、羽生総務部長、  
塚本（隆）市民生活部長、塚本（哲）保健福祉部長、加藤こども未来部長、  
佐藤産業経済部長、船沢都市政策部長、岡田建設部長、望月教育部長、鈴木消防長

●欠席者：

[有識者会議委員（３人）]

堀越委員、梅澤委員、栗原委員

●事務局：佐々木政策企画課長、冨田主任政策員、小川政策員

●配布資料：

資料Ⅰ 第２回土浦市総合企画審議会での主な意見とその対応について

資料Ⅱ 第９次土浦市総合計画フロー図

資料Ⅲ 第９次土浦市総合計画基本構想（素案）抜粋

資料Ⅳ 第８次土浦市総合計画「施策の大綱」と第９次土浦市総合計画「基本目標」  
の整理

参考資料 第３回土浦市総合企画審議会説明概要

## 1 開会

### 【事務局説明】

## 2 会長あいさつ

- ・本来であれば、第2回審議会も集まって行う予定であったが、コロナ禍ということもあり、書面で御意見を頂くという形とさせていただいた。本日は、ぜひ活発に御意見を頂戴し、良い総合計画を作成できるよう、よろしくお願ひしたい。

## 3 報告事項

### (1) 第2回土浦市総合企画審議会での主な意見とその対応について

#### 【事務局説明】

## 4 議事

### (1) 第9次土浦市総合計画基本構想（素案）について

#### 【事務局説明】

#### 【副会長】

- ・7月に頂いた時の段階では、リーディングプロジェクトへの思いはよく分かったが、多種多様な施策をどうカバーするのかというところを一括りになりすぎているように感じていた。今回、基本目標を8つに再編したことにより、市としてどのように各施策に目配りをしていくのかという視点が整理ができて、分かりやすくなったと感じる。
- ・大きな目標とリーディングプロジェクトや基本目標をつなぐ、新たに追加された「将来像を支える3つの視点」については、とても大事であるし、入れた方が良く思っているが、この部分については、もう少し検討が必要であると感じる。3つ目の「将来にわたって、持続可能な地域を創造する」は、SDGsの観点もあり、比較的分かりやすいと思う。しかし、1つ目と2つ目はタイトルだけ見ただけでは、何を目指しているかが少し分かりにくい。おそらく、1つ目は人を中心に見た場合、2つ目は、物理的な環境や地域の経済活動を応援していくような観点であると思うが、どちらも「つながり」といった言葉を使用したことにより、分かりにくくなっているのではないかと思う。1つ目は人に着目しているので、「人と人、人と地域の～」とわざわざ書かずとも、単に「地域のつながりによって、社会を支える」で分かるし、2つ目は「本市の内外につながり」という表現が逆に分かりにくく、観光や産業面に着目するのであれば、「地域の資源を生かして活力を生み出す」といった書き方にする方が分かりやすいと私は感じた。
- ・全体構造は、以前より分かりやすく整理されたと感じる。

#### 【事務局】

- ・御意見のとおりであるため、御意見を踏まえて、特に1つ目と2つ目のタイトルの部分については、再検討し、次回審議会にて提示したい。

#### 【委員】

- ・リーディングプロジェクトと8つの基本目標の記載順序については、重要な順に並

べているのか。

**【事務局】**

- ・基本的には並列であるが、子育てについての方針を前面に出したいという思いがあり、この順にしている。

**【委員】**

- ・土浦市が直面している一番大きな問題は何であると理解しているか。

**【事務局】**

- ・全国の地方都市と同様に、人口減少により地域の活性化が停滞していることが一番大きな問題であると認識している。

**【委員】**

- ・土浦市の一番大きな問題は、人口減少と今お聴きしたが、基本目標の中に、そのような記述が見られない。重要な問題と目標との関係はどのようになるのか。

**【事務局】**

- ・一番大きな問題は、他の自治体と同様に「人口問題」と御説明したが、一方で、自治体のやらなければならない役割は、住民の福祉の増進を図ることである。ここで、福祉とは、公的支援にとどまらず、個々の「幸せ」を実現するということであり、個々の「幸せ」といっても、それぞれの住民が求めるものは異なっている。したがって、こうした個々の「幸せ」な生活づくりを手伝えるよう、全部を網羅できるような将来像を作り、各施策で進めるべきものを進めるため、特に、「リーディングプロジェクト」を掲げ、8つの「基本目標」については、全体を網羅するような形で設定したところである。ここで、人口減少問題で一番の要因と言われる子どもの部分の解決が今やらなければいけないことと考え、リーディングプロジェクトや基本目標の一番頭に設定したところである。

**【委員】**

- ・どのような施策をどのような指標をもって行うのかといった、具体的な内容は次回以降に示されるのか。

**【事務局】**

- ・今回の総合計画の策定は、コロナ禍といった大きな転換期の中で、まずは、大きな方向性やそれぞれの政策分野の考え方についてまとめていきたいと考え、取りまとめたものである。その上で、個別具体的な施策については、個別計画において行っていく。

**【委員】**

- ・それでは、次回以降に具体的な議論ができるのか。

**【事務局】**

- ・今回策定する総合計画については、リーディングプロジェクトは若干施策も入れているが、大きな転換期の中で大きな方向性を示したいと考えており、この総合計画の下には、60個ほどの個別計画がある。まずは、総合計画で方針を打ち出した上で、その方針を踏まえ、必要に応じて個別計画の見直しを行っていかねばと考えている。

**【委員】**

- ・次回以降、具体的なものを見せていただけるのか。

**【会長】**

- ・総合計画は、個別具体的な議論をするというよりは、全体的な計画を立てることが目的であり、今ここで、議論の機会を約束するようなものではない。

#### 【委員】

- ・私は、市の御意見をお聴きしたい。例えば、新聞に掲載されている「共働き子育てしやすい町ランキング」や「テレワーク環境充実度ランキング」では、土浦市が一切上位に入っていない。このような状況に対する土浦市の具体的な対応策について、今後お話することができるかをお伺いしている。なぜならば、市外からの定住者を増やすという観点では、外の人たちは、土浦市に住むかどうかを決めるに当たって、具体的に土浦市に住むのにどんなベネフィットがあるのかを見るのに、こうした新聞等から得られる情報を見て、決めていると私は想像しているからである。その意味で、今後のディスカッションの中で、こうしたことに関する議論はできるのか、例えば、具体的に何位を目指すかといったことは、私は、審議会委員として市民としては知りたいことだと考えているので、お話した。

#### 【委員】

- ・資料Ⅲの6ページにおいて、「特に20歳代後半から30歳代といった若い世代において転出超過の傾向が顕著な状況が継続しています」という表記があり、最後は子どものことになるとは思うが、やはり、人口問題においては、若い親世代がたくさん住むか住まないかが鍵となるのではないか。例えば、近隣市町村のうち、どのような所が人口が増えているのか、土浦市の状況だけではなく、周りのデータを分析をし、増えているところはこういった対策を行っているのかといった観点からの資料をお示ししていただけると良いアイデアが出てくるのではないかと。

#### 【事務局】

- ・県内及び県外との転入及び転出の移動数の状況については、次回改めてお示しする予定の序論・序章においてデータ等を組み入れている。また、令和元年度に策定した第2期土浦市まち・ひと・しごと創生「総合戦略」においても、土浦市が周辺市町村との関係において、特に子育て世帯の転出超過が見られているという傾向についての対策を打ち出しているところである。ここで、「総合戦略」は、総合計画の下部計画であることから、「総合戦略」の内容については、今回の総合計画に当然反映しているものとなっている。
- ・総合計画で議論していただくのは、個々の施策の部分よりも施策の方向性についてであり、各施策の具体の部分については、個別計画にて対策を打ち出しているところである。

#### 【会長】

- ・今のアドバイスでは、全体の状況は押さえておいてほしいということであるが、そのあたりは、序論・序章で見せていただければということではよい。

#### 【事務局】

- ・全体の移動数、特に、近隣市町村との転入及び転出の移動数の状況、また、地方創生が東京の一極集中の是正を目的としていることから、東京圏との転入及び転出の移動数の状況を含めて、次回以降の審議会でも、序論にてお示しする。

#### 【委員】

- ・コロナ禍において、東京一極集中によるリスクが非常に顕在化しており、テレワーク等が可能な東京近郊の都市は魅力度も上がってくるはずである。ここで、コロナ

対策は、どの市町村も同じレベルのことを言っていると思うが、土浦の将来展望を考えた場合、少しくらいの対策で人口が増えるとはほとんど考えられない状況であるため、交流人口や流域人口などの観点から、近隣市町村の人口も踏まえた中で、土浦がリーダーとしていろいろなことを発信していくという視点がとても重要であると思う。この計画で周辺市町村との合併について言及するわけにはいかないと思うが、周辺地域も含めて、将来人口が減少していく中で、土浦がこの地域の中心自治体として取り組んでいく強い姿勢についても、9次計画にも反映させることが重要であると考えている。

#### 【事務局】

- ・委員御意見のとおり、コロナ禍において、土浦市をどうPRしていくかが一番の課題となると考えている。移住定住の施策については、コロナ前は東京での移住相談会を開いたりなどしていたが、今年度はコロナ禍を踏まえ、今お話にあったテレワーク関係では、「テレワーク体験ツアー」を予定しているほか、Web会議システムを活用した移住相談会などを行っているところである。本市のPRについては、令和元年度に策定した「第2期つちうらシティプロモーション戦略プラン」に基づき、各種施策を実施しており、ネット時代の消費者の購買プロセスを踏まえて、知らない人に知ってもらって、興味をもってもらって、調べてもらって、来てもらって、最後には、それをシェアし、広めてもらうという考え方のもとで、他にも施策を講じて取り組んでいきたい。

#### 【委員】

- ・流域という考え方の中で、将来像として、土浦市がこの地域の中心市として近隣市町村と一緒にいろいろなことやっていくという政策を発信していくことが、この地域の確固たる地位を築いていくことになると考えているがいかがか。

#### 【事務局】

- ・近年は、地方創生の観点から、広域連携が重視されている。平成27年からは、サイクリングルートに沿線自治体との観光面での連携、また、交通の面からも千代田神立ラインや霞ヶ浦広域バスといった他の自治体との連携を行っている。今年度からは、新たな取組として、土浦市と行方市、潮来市、かすみがうら市の港つながりで、新たにサイクリングによるまちづくりの連携も進めている。この中では、ライドアラウンドという4市のスポットを巡って、ポイントを稼ぐような仕組みや、土浦市のサイクルーズを活用してもらいイベントも開催している。

#### 【委員】

- ・人口減少は全国的な問題であり、ここ4～5年、10年取り組めば増えるといった簡単なものではないと思う。要は、この10年で、「ここに住んでいる私たちが、ここに住んでいていいね」という要素が増えれば、人口が少しずつ増えるかもしれないという考え方もある。他の自治体と比べてどうこう言って、だから土浦はだめだよねというのではなく、土浦はこんないいところがあるよ、という視点で考えていくのも大きなポイントであると思う。私たちの周辺では、土浦辺りは災害がないということで、「これから災害が激甚化していく中で、地理的にもとてもよいところだよね」、「ここに住みたいよね」といった声もたくさん聴く。
- ・ここで、土浦で本当に幸せに暮らせるために、リーディングプロジェクト1で「子どもが夢と希望を持ち、生き生きと育つまちづくり」が挙げられているが、これは、

子どもが育つまちをつくろうというものであって、子どもが主体となって書かれているのか疑問に思う。子どもが主体というよりも、大人が子どもにしてあげようという視点しか入っていないように思える。「子どもがここで楽しく暮らすことで、子どもがどう育つか」という視点を入れた方がよいのではないか。

- ・また、政策方針1の主導する取組に、セーフティーネットで幼稚園の整備をしますといった記載があるが、これは10年間の計画の中で行うような事業なのか。さらに、セーフティーネットとして公立保育所を位置付けていることで、極端な言い方になるが、民間の保育所が増えてきている中で、民間では、障害のある子どもを始め、いろいろな問題を抱えた子どもは受け入れられないため、セーフティーネットとなる公立の保育所で受け入れますといったニュアンスで理解したが、子どもは、いろんな子どもがいる中で育つことが大事であると思っている。したがって、民間であっても、そういう様々な問題を抱えた子どもたちも受け入れられる施設が増えるような施策に変えてもらいたいと思う。

#### 【事務局】

- ・委員御意見のとおり、そのようなニュアンスにも受け取られる表現であるが、実態としては、民間保育所でも発達に遅れのある子どもの受入れを行っている。ただし、民間保育所は経営的な問題もあり、保育士の数が十分確保できない面もあることから、公立保育所での受入れが多い現状もある。この部分の書き方としては、公立、民間のどちらがいいかということではなく、公立保育所がその中心となり、主導して、市全体で子ども子育て支援を行っていくという考え方を表現したかったが、委員の御意見を踏まえて、表現については、改めて精査したい。

#### 【委員】

- ・官民連携でやっていくということか。

#### 【事務局】

- ・そのとおり、地域共生の観点から民間活力も導入していくという考えがベースにある。

#### 【会長】

- ・表現方法について、子ども目線で書いてもらいたいという思いが中心的なこととしてあるのではないかと思うので、その点も検討してもらいたい。

#### 【事務局】

- ・子ども目線での表現の精査についても検討していく。

#### 【委員】

- ・事務局の方から人口減少について危機感を持っているという話があり、私もそのように感じている。資料Ⅲの6ページ(2)にあるとおり、先ほど他の委員から話があったが、20歳代後半から30歳代といった若い世代の転出超過の傾向が顕著という点も気になるところである。ここで、交流人口や仕事や観光などをきっかけに土浦市の存在を認識するいろいろな人を関係人口として定住人口につなげていきたいということであるが、一方で、定住人口は今まで住んでいる方がいることから、実際に市のこういった基本方針を作る上で一番大事なのは、人口をどのように定住させるかではなく、今まで住んでいた人たちが素晴らしい環境だと言えば、周辺の人たちも来るのではないか。そこに、例えば、最近のデジタル化社会の中で、通勤しなくても済むテレワークなどの環境を中心市街地に整備したりすれば、定住人口

が発生してくるのではないかと思う。昔から住んでいる人たちがいいなと思うまち、そこに新しい人たちが来ても、昔から住んでいる人の生活が魅力あると思えるまちづくりのために、何かを決定していけば、自然に人が集まるのではないかと思う。

- ・視察に行った他の自治体では、「子育てタウン」という言い方はしていないものの、そのまちでは、住民が結婚して、将来子どもが生まれることを見越したまちづくりを行っていた。仕事が必要であろうということで、工業団地を作り、子育てするには、共働きもあるだろうということで、保育所も作っており、子育てができるまちを作るとなると、総合計画全てを行っていかねばならないが、そういったことをやっていたので、こうした他の自治体の良いところを取り入れてほしい。また、今まで住んでいる人が素晴らしいと思う点は残してほしいと思っており、こうした観点からも総合計画を考えていただきたい。

#### 【事務局】

- ・委員の御意見にあった「子育てタウン」の事例では、昨年度は合計特殊出生率が2.95ということで、日本全国でも極めて高い。行っている施策を調べたところ、国に先駆けて、不妊治療に対する助成金を行っていたり、子供の誕生に際しての祝金を出したり、高校生には在学中の就学支援などを行ったりしている。一方で、この自治体の人口は5,000人規模のため、こうした施策を講じることが可能であるといった面もあるが、考え方として参考にできる部分は参考にして、取り組んでいきたい。

#### 【委員】

- ・私の周りで言われていることでは、子どもに関しては、例えば、お母さんが保育園に預けても、子どもが熱を出したら迎えに行かなければならず、仕事を途中で中断せざるを得ず、結局仕事で大事な役を任せてもらえないことから、病児保育のようなそのまま預かってくれるところがあれば、そのまま仕事をできるのではないかと、といったような意見を書かせていただいた。人口減少については、どこかと比べて、あるいは、隣と比べて、ではなく、他の自治体では行っていないような何か新しい取組があると人も集まってくるのではないかと思った。土浦市で、他のところを真似するのではなく、他のところでやっていない独自のものがあると目玉になりよいのではないかと考える。

#### 【事務局】

- ・病児保育は、市でも実施しているが、今の御意見については、預かっている保育所で病児保育が実施されていない場合は、迎えにいかないといけないという制度の挟間になっているケースであり、利用の方法を工夫しなければならないと考えている。また、他の市町村でやっていない事例としては、些細なことではあるが、最近では、お母さんが子どもの面倒をみななければならないことからワクチン接種できないということにならないよう、希望する子育て世帯に対して、ワクチン接種時の子どもの無料一時預かりを実施しているなど、新しい取組も少しずつ進めているところがある。

#### 【委員】

- ・総論、各論が混ざっている議論になっており、何を発言しようかと考えていたが、事務局にお願いしたいのは、この計画が絵に描いた餅にならないようにしていただきたい。いくらきれいな文章を書いても、具体的な成果に結び付かないとしようが

ない。ここで、具体的な成果は何かとなった場合に、確かに、行政の所掌する部分は企業とは異なり、お金で投資対効果で評価できないと思う。しかしながら、先進国の中には、与えるサービスを金額に換算し、効果を検証をしている国もあり、やってできないことではない。したがって、土浦市でも言葉の空回りで終わらないよう、効果を具体的にできるだけ物の項目に落とし込んでいただきたい。絶対値で効果の評価をすると同時に、フォローアップを行うことが大事である。ここで、指標がないとフォローアップできないことから、国や県がどのような指標や評価基準を持っているのかを引っ張り出して、その中で、土浦市はどのような位置付けになっているのか評価をして、その評価に基づき、「この項目は、何倍値にしよう」とかいったような目標を具体的に作り、方向付けを行っていただきたい。

#### 【事務局】

- ・事務局としても、フォローアップが一番大事な部分であると考えており、各々の指標は、次回お示ししたいと考えている。また、具体的な指標については、まずは、個々の計画で設定しており、これらも踏まえながら、こういった指標が適切であるのか、検討していきたい。

#### 【委員】

- ・資料Ⅲの1ページの下で、「地域の宝」で人を呼び込む」とあるが、土浦市の歴史や伝統については、私はあまり多くは思い浮かべることはできない。それを磨きをかけると書いてあるが、例えば、テレワークのしやすさ、子育てのしやすさ等を前面に掲げるなど、新しい地域の魅力を作り込むことによって、人を呼び込む必要があると考える。まちの将来像の大きな方向性として、「地域の宝」で人を呼び込むだけでは不十分だと思う。

#### 【事務局】

- ・土浦市といえば、霞ヶ浦があつて、筑波山麓があつて、国指定の文化財などもあり、まずは、土浦の宝である「地域の宝」を磨き上げていくことを考えている。具体的には、今まさに実施しているサイクリング事業がそうであり、筑波山麓から霞ヶ浦一周のサイクリングルートという地域の資源を活用した魅力発信を行っており、観光入込客数も増加している状況もある。こうした取組の状況を踏まえて、「地域の宝」に磨きをかけ、魅力あふれるまちを作っていきたいという思いで原案を作成したところである。頂いた新しい分野の要素を入れた方が良いという御意見については、次回までにどのように入れるか検討させていただきたい。

#### 【副会長】

- ・個別になるが、リーディングプロジェクト1の「ママになるなら土浦市」というフレーズが正直気になっている。こういったフレーズを最初に使い出したのが流山市で、「母になるなら流山」というフレーズを用いて、10年ほど前から非常に画期的なプロモーションに取り組んでいるが、ちょっと二番煎じの印象を受ける点と、ターゲットは「ママ」だけなのかと思う。ただ、土浦市で子育て期にかかってくる時に、転出を考えるような世帯の方々にとって、このフレーズでサポートを厚くしていくということが響くのであれば、これが一番よいと思う。先ほどお話があった病児保育においても、お母さんが中心となっており、その状態が今後も続いているので、その部分を手厚くしたいというのであれば分かるが、土浦市は同居率、近居率が相当高いと思われることから、子育ては「パパ」や「祖父母」にも参加しても



らうという視野も含まれるのではないかと思う。先ほど「子供中心の」といった話があったが、子どもが元気に育つという目的を鑑みても、再度、誰に響くのか、この言葉で響くのかを改めて確認していただきたいと思う。

**【事務局】**

- ・本フレーズは、上層部や庁内の担当部署と協議した結果であり、このリーディングプロジェクトは、子どもに特化したものであることから、このような表現を採用している。また、御意見にあったように、性別による固定的役割分担の解消という男女共同社会の観点からも、男性の育児休業取得による子育て参加も含めた地域社会への進出も大きなテーマになっており、この部分については、別の基本目標で取り上げているところであるが、御意見を踏まえて、再度上層部や庁内の担当部署と協議をしたい。

**【副会長】**

- ・ターゲットとなる方々にこの表現で響くかという確認を何らかの方法でしていただきたいと思う。

**【委員】**

- ・「ママになるなら土浦市」について、私も非常に違和感を覚えた。この言葉がどんな風に響くかということについては、アンコンシャスバイアスで男性も女性もみんな性別役割分担意識を持っており、これを読んでも、「これでいいんじゃないか」と思って、終わってしまうのではないかと危惧している。そこは、男女共同参画の基本的な考え方から、思い込みで「ママ」「パパ」と区別せず、男性も女性も平等に参加できるよう、行政がリードし、市民の気持ちに入っていくほしい。

**【事務局】**

- ・御意見のとおりと考えているので、御意見の趣旨を踏まえて、再度検討させていただきたい。

**【会長】**

- ・貴重な御意見ばかりだったと思うので、ぜひ取り入れてもらい、次回の会議に進めていただきたい。
- ・時間のため、閉会とする。

**5 その他**

**【事務局】**

- ・今回の会議は、コロナ感染拡大の防止の観点から限られた時間での会議であったため、その他お気付きの点があれば、意見書を10月13日（水）までに御提出いただきたい。
- ・次回の審議会は、11月18日（木）の午後1時30分から開催の予定である。場所については、未定であることから、改めて御案内する。

**6 閉会**

以 上